

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ロータリー』



世界に希望を生み出そう

2023-24年度国際ロータリーテーマ

会長 佐藤 幸彦
幹事 村上 堅二



第1773回例会

令和5年9月7日(12:30～13:30)

○ソング

- 君が代
- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 佐藤幸彦会長（暑い日が続いてますが、皆様身体に気を付けてください。野球愛好会の皆様、お疲れ様でした。松永会員、卓話ありがとうございました。）
- 村上堅二幹事（松永委員長、ありがとうございました。11月11日と12日は地区大会になります。是非とも参加お願いいたします。）
- 成井正之会員（先日、野球愛好会の東北大会打ち上げの席で野球愛好会の皆様から古稀のお祝いをいただきました。ありがとうございました。川俣の試合では私の横をライト前のヒットで逆転負けをしてしまいました。エラーだと言い張る鬼もいましたが…。）
- 野球愛好会 吉田充監督（福島県大会では、皆様の応援をいただき、ありがとうございました。）
- 金田昇会員（先日、ホームミーティングが行われ楽しく有意義な時間を過ごせました。運天班長ありがとうございました。誕生日のお祝いありがとうございました。）
- 石部辰雄会員（誕生日祝い感謝します。平均寿命になりましたが、健康第一で頑張ります。）
- 富永章会員（誕生日祝いありがとうございました。いよいよ後期高齢者になります。限界です。）
- 永野文雄会員（野球愛好会の皆様、お疲れ様でした。松永会員、卓話ありがとうございました。）
- 宮本多可夫会員（少し涼しくなってきました。秋に向かって、楽しいロータリー活動をしていきましょう。）
- 石川格子会員（今年度初参加です。すみません！今晚のホームミーティングも楽しく開催できるよう班長頑張ります。）
- 増子国安会員（とりあえず!!)

▶第1773回例会出席状況 (R5年9月7日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	53名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	67名
Ⓒ ①の出席者数	25名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	3名
Ⓕ ②の出席者数	8名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	36名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	61
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	59.0%



▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

佐藤幸彦会長



皆さん、こんにちは。今朝ほどですとだいぶ涼しくなってきたなと感じた次第ですが、暑さを表す言葉でちょっと調べてみたら、極暑、酷暑、炎暑、激暑、大暑、ずらずらっと十幾つ続くようなんですが、それ意外にも、真夏日とか夏日、猛暑日、熱帯夜とありますが、今年は特に皆さんもお聞きになったかと思ます危険な暑さ、災害級の暑さという言葉がマスコミで言われておりました。これは気象庁では使われない言葉らしいですね。マスコミが作った災害級の暑さとか危険な暑さというのがだいぶ今年はお出しておりました。確かに私もそうですが、今までエアコンをつけたまま寝たことはなかったんですが、今年は何日間かつけたまま寝たような記憶がございます。暑さ指数で今年だいぶ言われておりましたが、31以上は原則運動中止という言葉が出ておまして、この暑さ指数というのは皆さんもおそらくご存じかと思ますが、温度差とか倒れた人の数なんかも入ってるようですけども、その中で暑さ指数というのが今年はお出しておりました。また、昨日もそうですがゲリラ豪雨や異常気象が昨日の福島市のほうとか、栃木、宇都宮のほうもかなり集中豪雨があったようです。皆さんも常日頃から対応しておくべきかと思っておりますのでよろしくお願ひします。話は変わりますが、先日の新聞に出ておりましたシティブランド・ランキング、住みよい街2023。これ日経BP総合研究所というところが発表しているわけですが、北海道・東北のトップ3の中に白河市が第3位で入ったんです。北海道・東北だけのランクですが、1位が北海道の札幌市、2位が宮城県の名取市、3位が白河市だったんですね。これすごいなと思しました。全国は新聞の中でも発表になりましたが、1位は常連の東京都武蔵野市、2位が千代田区、3位が中央区となっておりますので、白河も捨てたもんじゃないなと思っております。それで、ロータリーの話になりますが9月2日3日、野球愛好会の皆様大変お疲れ様でございました。だいぶ健闘したと、頑張ったという話聞いておりましたが、後程詳しい内容は野球愛好会のほうからあると思しますので、お聞きになっていただきたいと思ひます。また、今週よりホームミーティングが始まっております。昨日もやられた班もあったそうでございますけども。「みんなが楽しいロータリー」を目標としておりますので、アルコールも入って口も滑らかになるかと思ひますけども、楽しいホームミーティングであっていただくようお願いいたしまして、簡単ではありますが私の会長の挨拶とします。

■幹事報告

村上堅二幹事



○日本事務局 業務推進室：基本的教育と認識率向上月間リソースのご案内
○ガバナー 右近八郎、青少年奉仕委員会委員長 大木和彦：青少年奉仕委員会セミナーのご案内〈ローターアクト委員会・学友委員会合同〉

- 米山記念奨学会委員会委員長 吉田喜一：10月の奨学生卓話について
- ガバナー 右近八郎、職業奉仕委員長 齋藤純一：「職業奉仕会セミナー」開催について
- 2022-23年度RYLA委員会委員長 佐藤美奈子：国際ロータリー第2530地区2022-23年度「第41回RYLA研修会」報告書送付の件

■委員会報告

○野球愛好会

吉田充監督



拍手、ありがとうございます。慰めの拍手かなと考え受け止めます。結果報告をさせていただきます。9月1日、2日の両日、1日は福島市のほうで懇親会を前夜祭という形で懇親を深めさせていただいて、2日の日「東邦グラウンド」という所、東邦銀行のグラウンドで2試合ほど試合をやらさせていただきました。第一試合の部分と第三試合で当クラブの野球愛好会は試合をしたわけですが、結果は2戦2敗ということでございまして、東北大会9月30日を予定してたんなんですが、東北大会のほうには出席できないというふうな形になりました。とはいえ、今年度の佐藤会長のおみんなが楽しいロータリーというふうな部分で、野球愛好会として各メンバー一生懸命練習をし一生懸命試合をして、懇親を深めて楽しんできたことは事実でございまして、結果だけでいいますと、白河ロータリークラブに9対2で負けました。それと第三試合が川俣ロータリークラブに9対8で逆転さよなら負けを期しました。本当に悔しさはあるんですが、一つ楽しんで来れたかなというふうに思ひます。野球愛好会これからも、毎年こういった形で皆さんに応援をいただきながら頑張るクラブのほうにもそういった事で出席率を高めながら、各行事に野球愛好会として参加していきたいなというふうに思ひますので、今後とも応援のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。

○親睦活動委員会

【結婚記念日】

鳴島三夫会員

【誕生日】

石部辰雄会員、富永章会員、
金田昇会員、長克則会員

吉成真五郎委員長



○雑誌広報渉外委員会

松永紀男委員長

皆さん、こんにちは。今日、卓話を私させていただく段取りになっておりますので、その時にまとめてお話はさせていただこうかなとは思っているんですけども。その前に野球愛好会、1日、2日とご苦労様でした。今朝の民友新聞のほうに記事が載っております。白河ロータリークラブが一位ということで、多分ご覧になった方もいらっしゃると思いますけども。よりによって上位大会に行けない時に限ってこういうふうに新聞に載るといふ、皮肉ということで、次リベンジしていただければなと思っておりますので、このタイミングは以上でお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

■本日のプログラム

雑誌広報渉外委員会担当例会

○雑誌広報渉外委員会

松永紀男委員長



改めまして、こんにちは。本年度私も久しぶりですし、今日見た感じかなり久しぶりの方もいらっしゃるのでは、改めまして雑誌広報渉外の委員長を務めさせていただきます松永紀男と申します。よろしくお願いいたします。

今回、担当例会持たせていただくにあたっては、村上幹事のほうからロータリーの友委員会という上部組織あって、福島ロータリークラブ所属の相良さんが広報関係の担当をされてるので、そちらの方に卓話をいただいたらいいのではないかとということで、早速村上幹事のほうからそういうアドバイスいただいてすぐにお電話をしたんですけども、その今日本日は他のクラブで卓話をする予定が入っているので残念ながらそちら

には行けないと。勉強のための資料をメールで送るのでそれで2週間3週間くらい、たっぷり勉強してあなたが卓話をしなさい、というふうにお話いただいたものですから。他になんの予定とございますか、段取りもしていなかったもんですから今日は口だけで私、語らせていただこうと思っております。それで、私もこの2年ちょっと、ほぼロータリークラブ休眠状態で2月から復帰させていただいて、以前いつ卓話したのかなと思って思い出せないくらい多分やっていないんですね。おそらく5年とかそのくらいやっていないので、久しぶりに卓話をやらせていただいてもいいのかなと思って、今回本当に少しまとまった時間いただいておりますので、ちょっとゆっくりと話ながら、間延び気味で話させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。一応テーマ決めてきてまして、今日月初ですから読みどころ解説と、あと多少ちょっと勉強してきましたので、読みどころの解説と『ロータリーの友』の読み込み方と、あと友好的な活用方法等々、ここが本日のメインになるんですけども、それが一つ目。二つ目としては、先週お世話になりました私の後輩であります関西大学の福島県での活動報告と、ここに至った経緯をちらっと話しさせていただければなと思っております。三つ目にわたくし事なんですけど、昨年11月から多分見ていただいたことあると思うんですけども、『月間こみっと』という月間の地域雑誌が発刊されています。実はこういうものを作りたいということで、5年くらいいろいろとそういう発行元と話しながら、やっとなんか地域情報誌を作れることになったので、その辺の経緯を時間があれば話したいかなと思っておりますので、ひとつよろしくお願いたします。まず一番、ロータリーの読みどころについてなんですけども、お手元に9月号あると思いますのでお取りください。それで何度か申し上げてるんですけども、電子版ございましてIDとパスワードがロータリーの週報にも前掲載させていただいてます。それがあれば、いつでもどこでも『ロータリーの友』を見ていただくことができるので、こういった形でこう持ち歩かなくてもそういったものを見ながら読んでいただく事できるので、利用していただければなと思っております。この辺メリットは、過去ログというか以前のものまで全部見ることができます。だから、例えば何か担当の例会があるとか、何か事業がなんていう時にはいろんなものをそういうものを見ながらちょっと参考にして、勉強していただければいいのかなと思います。まず初めに、横組みの7ページご覧になっていただけますか。こちらに、ここから7ページに渡って「毎月雑誌が作られるまで」ということでタイトルで対談形式で編集されてます。中でざっと読んでいただければ、お分かりになられると思うんですけど、何で縦組みと横組みがあるんだろうとか、どうやった

らこの記事に、この冊子に載せてもらえるのかとか。あと逆に、この雑誌自体がほとんど投稿で成り立っているだとか、そういった事がざくっと書いてあります。そういう全国、世界のそういう情報というか上がってくる情報を集めて集約されて作られているものなのだけ理解しておいていただければいいかなと思います。内容は読んでいただければ、わかっただけだと思います。その中で、今回2530地区の記事でいいますと横組みの30ページ。川俣ロータリーさん。先程もちょっと川俣ロータリーさん話には出てきたと思うんですけども、中学生軟式野球大会が今回30回目を迎えたという記事が入っております。当クラブも10年間に渡って中学校の先生方や学校と連携しながらCKBに取り組んでおりますので、今後何かこういった同じようなといいますか活動をやってるところと、そういった連携事業というかそういう事もやっても面白いのかなというような気はします。それこそ、今回の野球チームでも大変お世話になってますとこなので、そういう連携もあっていいのかなと思っております。この中で私感じたんですけど、ちょっとこういった青少年育成に関わる記事読んでおまして、最近思ってますのは佐藤会長がクリスマスパーティーをミュージックパーティーにしたいという思いがあるという中で、実はこの白河地区って音楽活動が結構盛んな地域なんじゃないかなと思ってます。例えば、今月に入って新聞記事読んでると、全日本吹奏楽コンクールの東北大会というのが先日石巻市で開かれているんですけども、ここで西郷二中が金賞を取って東日本大会に出るんですね、山梨県。あと東北放送が主催して、一部福島テレビ局も追加協賛している東北放送音楽コンクールというのの県大会が喜多方市でこの前開催されてるんですけども、そこで合奏で西クラブのほうでも関りのある白河一小が優秀賞取られていて、合唱では西郷一中が優秀賞。管楽合奏というのが白河二中が優秀賞で、器楽、多分器楽というのはそのバイオリンとかそういうやつですね。そういうものだと西郷一中が優秀賞。合奏で中央中も優秀賞取っていて、これって県で2校しか選ばれないんですね。その中に、この期間でこれ大きな大会なんですけど6校もこの地区、6校というか6チームといたらいいんですかね、入っていて。じゃあ、これ結構みんな行くんじゃないかというふうに私も調べてみたら、ほとんど県北地区だとか、あといわき地区からは出ていないんですね。出ていないというのは出場していないということではなくて落選してるというか。だから、おそらくこの地区ってこういうちょっと私はわからない世界なんですけど、私もスポーツ系推しな人間なものですからわからないんですけど、もしかしたらこういうものが実は強くて、素地として強くて、こういった活動を我々としても今後支援していく

ような、または応援していくような筋書きというか段取りというのでも、もしかしたらいいのかなというふうにちょっと感じました。これは私の私見なんですけども。例えば、以前にはロータリークラブでも楽器の贈呈でありますとか、修理だとか、あとコンサート開催したりという活動を継続的にやっていますので、どうしても私の頭の中には野球とかそういうのしかないんですけど。頑張ってもらえる子供たちとか、小学生、中学生なんていうのは、別にそのスポーツ系だけでなく文化的なものでもやられる方って結構いらっしゃると思うので。例えば、絵とか絵画というんですか芸術系ですね。そういったものなんかもおおいに後押ししていく団体であるべきなんじゃないかなというような気がいたしました。また、そういうものも含めて、あまねく支援ができるような団体であればなお嬉しいなというのを感じました。ロータリーの友については、もう少し皆様には熟読していただいて、内容は読んでいただいて感じ方とか捉え方というのは各それぞれだと思いますので。深読みするというか、深読みして裏を裏取りするといいますか、裏を読むとかそういうことではなくてさらっと読んでいただいて、例えば地域で、福島県内ととか、地域でだとか、全国で、または世界でどんな活動してるのかを見て、自らの我々の活動の参考書にさせていただくことができればいいのかなとは思っています。また、せっかく立派な冊子ですから家族とか知人だとかそういう人に読んでいただくのも一考かなというふうに指導を受けました。お渡ししてもいいということなので、ひいてはそういう中でメンバー間の交流とか絆が深まったりとか、例えば、家族の交流が活発になったりとか、最終的にはそういう活動することによって新規のメンバーが増えたりすることもあるのかななんてちょっと読んで思っております。あと個別の内容については、ざっくりとか中身目を通していただければ、それぞれの感じ方で捉えていただければいいかなと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

二番目に入らせていただきたいんですけども、まずは先週は私の大学の後輩と先生が貴重な例会の時間を、しかも前から言っていた話ではなくてギリギリになって、そういうところは是非はめいただきたいと会長にお願いしてお時間いただきました事をここで言うおこななくてならないんですけど、本当にありがとうございました。学生にとっても大変良い経験になって、なかなか今の学生ってそういう外に出て社会勉強することがない中で、大変貴重な体験させていただきましたということで申しておりますので、ここで学生、先生に成り代わってお礼申し上げます。その中で、『ロータリーの友』の横組み16ページ17ページにも書かれているんですけども、今月の9月1日に防災の日ですね。関東大震災から100年になります。それに

合わせて学生もこちらに来ていたということにはなるんですけども。わたくし自身として、私の大学福島県内に同窓会組織がありますので、こういった学生支援の活動を続けて約10年くらいになります。10年くらいになっておそらく今まで受け入れしてきた学生の延べ人数で行くと、おそらく1,000人くらいは受け入れ活動やってきてます。ただ、これは私の母校の関西大学だけのことではなくて、ほか例えば東京だったとか、あとは連携校から来てる人間にちょっと何かやってほしいなんていう学校からそういう支援をやっている。実は、私がこういう学生支援続けてるすごくきっかけになった実は出来事がありまして。以前、もうちょっといつなのかも覚えてないくらいの話なんですけども、広域財団法人藤田教育記念振興会の、龍文さんのとこで藤田記念博物館で学芸員を目指す学生さんを受け入れておられて、その博物館講習、実習だと思うんですけど学芸員になるためにおそらくどこかの博物館に行って勉強してきなさいとって講習をして。おそらく学校の先生にいう教育実習みたいなものなんだと思うんですけども。その藤田記念博物館において、その学生さんを受け入れをされていたんですね。これちょっと記憶定かじゃないんですけども、確か国立の大阪教育大学の学生さんだったと記憶してるんですけども3名の方当時来られていて、一生懸命実習されておりました。実際の実習の現場というのは私、拝見はしていないんですけども、日程の中に一日だけ観光のスケジュールに入っていて、一日だけ私も参加させていただきました。その時に、やっぱり学生の話聞いて、こういうお手伝いもいいなと思ったのが一つと、あとはどうせやるのであれば自分の後輩面倒みたいなの思ったのがきっかけで。あとは学校なんかと相談しながらこういう活動をスタートさせていただきました。丁度その当時、13年前に関西大学私の母校ですけど、一番新しい学部として社会安全学部というのがスタートしてるんですね。社会安全学部がスタートした翌年に、不幸な事にも東日本大震災が発生したという経緯で。それ以降、その社会安全学部という学部の性質上、だいたい福島の方に学生さんが来ることになったんですね。そのための大学側としては受け入れ組織をちゃんと整備してほしいということで、じゃあその辺校友会として受け持ちますかということで、そういう継続して続けているというのが今現状であります。最近では、社会安全学部でも卒業して10年だとかそのくらいの方いらっしゃいますので、そして福島で学んだ学生さんが、各いろんな所で活躍されているのを目の当たりにして、すごい大変頼もしく思っています。その中で、福島にそういう講習に来たきっかけに、今のところ3名なんですけども福島県のほうに移住をして、全く福島県とは縁がないんですけども、楢葉町と双葉町と西会津町に移住をしてきて住まれて

るような方もいらっしゃるの、まあ防災という切り口で福島を訪れて学んでそういった学生がこっちに来てくれるということに対してすごく感謝と、あとはこういう活動をやって良かったなというふうには思っております。大学の話ばかりしてもしようがないのか、ロータリーとしての関りとしては、実は関西大学の社会安全学部というのは、関西大学がある本拠地、大きなキャンパスがある元々のキャンパスというのは吹田市という所にあるんですけども。新しい学部なものですから、そこに用地がなくて大阪府の高槻市という所にあります。高槻市というのは、今、社会安全学部のキャンパスがある場所というのは、私が以前勤務しておりました会社のグループ会社の「GSユアサバッテリー」という工場があった工場跡地に立地してるんですね。その大学の敷地の角に、高槻東ロータリークラブと須賀川ロータリークラブの友好記念碑と記念樹が植えてありまして。以前からそういう流れだったんですけどたまたま去年、高槻東ロータリークラブの会長をされた浜田さんという方が、私旧知の方だったので、福島だけでその学生支援するのはすごく負担なので、そっちの学校がある高槻東ロータリークラブと関西大学の社会安全学部で連携して、逆にそっちの活動はそっちで支援してもらえませんか。福島で何か活動する時には、我々こっちできちんと受け入れますからということを申し入れたところ、浜田前会長の娘さんが関西大学のご出身だということで、アメリカンフットボール部のマネージャーか何かをされていて後援会長もやっていた。だから、やるよということとんとん拍子に話が進んで、じゃあ東ロータリークラブとその辺の今後の流れ打ち合わせしましょうということで、今年の4月の頭にそういう日程調整をしていたんですが。私はその前にコロナになってしましまして行けなくなりましたので、急遽西郷での活動にここもう4年、5年と大竹さんにお世話になっていた経緯があったので、代わりに大竹さんに大阪に飛んでいただいて、その辺の打ち合わせをさせていただいたというような経緯があります。今後、当然高槻東ロータリークラブと須賀川ロータリークラブのやり取りの中で高槻の方もこっちに来るし、また西郷で活動する際にはこちらのほうで活動やりますから、そういう連携踏まえてこういった教育活動が継続的にできていくことができればいいのかなと考えております。今回は、今月の20日頃にまた今回10名来たんですけども、今回10名来た中の2名と先生がまた研究活動でこちらのほうに来るとのことなので、その辺の事をこちらのほうでアテンドしたいなと思っておりますので、何かの機会があればそういった部分でご協力いただければなと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。ちなみに、これ前回来られました10名の中の一人が大学院生だったんですね。

30歳の大学院生だったんですけども、岩本乃蒼さんといっって日本テレビのアナウンサーさんなんですね。日本テレビのアナウンサーで日本テレビのアナウンサーを休職してというか、一時休んで関西大学の大学院のほうに入学をして防災を学びたいと。その岩本乃蒼さんがその水害専門に学びたいということで、須賀川のダム結界現場ですかね、そういう所を研究することなので、多分月に一回くらいこちらのほうに見えられて、そういう活動されていくのかなと思ってます。先週の段階では、日本テレビと大学との関係性でその岩本乃蒼さんが関西大学の大学院に入ってるっていう事を告知してくれるなという話だったもんですから、ちょっと申し上げることできなかったんですけども。9月1日から、その辺はオープンにしてもよろしいということになりましたので、その辺を踏まえて今後ちょっと見ると大変やっぱり10人並ぶと、ああこのアナウンサーだねというくらいのレベルの方なので。また来る機会ありますので、もしご挨拶させていただける機会があれば、させていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

三つ目に入らせていただきます。先程も冒頭に申し上げたんですけど、去年の11月から白河で月刊誌となりました『こみっと』について、私の思いと何でこういう事になったか簡単にご説明させていただきます。私、外部から来てすごく感じてますのは、白河ってこの地域に何か告知するとか、何か情報をお届けするっていう媒体が確固たるものがないんですね。例えば一時期無線FM放送局なんて開設されてたところありますけど、ほとんど活躍してませんでしたし、YouTube放送を見ても、見てる人カウンター見たら4名とかそういうレベルで。それでいて、じゃあこういったミニコミ誌的なものがあるかどうかというとないと。じゃあ、新聞で対応できるのかなと思ったら、実際新聞の購読数というのがかなり水増しされてるようになっていて、例えば業務なんかで広告ですね。折込チラシなんかを入れても今一効果が薄い。何よりもまず、こういうのを是非やりたいというきっかけになったのは、西郷村で大学生とも取り組みしてたんですけどアナログの防災無線というのがあったんですけど、それが3年くらい前に廃止になったんですね。そうやってくるとやっぱり情報難民みたいな方が結構出て来て、じゃあ何か良いものはないかなということで、いろいろ世間見まわしてると前から関りがあったその『すかっと』さんですね。須賀川地区中心にこういう冊子を出されてる所があって、それ見て須賀川の方なんかの話をする、月に一回だけけど全戸に配布してくれるし、須賀川市の広報より見るよなんて話があったので、じゃあやっぱりこれだなということで、これロックオンして是非それを発行してる会社さんにこういうものを白河で作ってほしいということをやっと言い続け

てまいりました。いろいろ紆余曲折あったんですけども、そういう陳情じゃないですけど、作ってくださーいと言ってほぼ4年経ってからやっと季刊で春号夏号秋号という形で出していただけるようになって、その3回出す中で様子を見ましようという話になったんですけど。まあ、3回出して結果あまり反応だとかそういうのは思わしくなかったんですけど、ただここまでやったんだからやっぱり発行しましようということを出すことになったということになってます。そういう地域の情報だとか、あとはどうしても私その子育て世代なので子育てに関する情報だとかそういうものをこういうのに掲載していきたいなとは思っています。ただ、当然こういう民間のものなので広告料収入で発行だとかそういうものは賄われてますから、かなり全戸配布の手数料だとかも考えて高額なんですね。広告料とか、出稿量が高額というか、ですからなかなかそういう部分で苦戦しているんですけども。須賀川のほうを見ていると48ページくらいまでに持っていけば、見栄えする読み応えのある内容のある雑誌になってきますので、できれば近いうちにそのくらいまで引き上げて、棚倉とかあっちの方面も併せてカバーすることでできればなんていう事をちょっと目論んでます。あくまでも野心的目標ということになりますけども。ただ、幸いな事に西郷、白河、自治体さんがすごく協力的にその辺を対応していただいて。例えば、今月号の『こみっと』なんかですと、西郷のほうのフットパスの全国大会がありますので、これを3面で実は全部広告料いただいてないんですけど。自治体さんなんかもこういうものに載せてということで。あと、須賀川市さんなんかは例えば市の広報で告知するよりも『こみっと』いわゆるこれの須賀川版ですね。で広報したほうが告知力があるということで、極力その広報を『すかっと』に載せるような流れを汲んでますから、できることならばそういうふうな形に持っていきたいかなと思ってます。ただ、今のところ多分見ていただいてわかると思うんですけど、表紙は有賀さんですし、2枚目はアットリフォームさんですし、その次片野さんが載ってますので、まあJC絡まりだとかですね、そういう身内で何とかこの辺をこう3ページ目になると上田さん、理事長ですよね。今は頼ってるということで、そういうことで良い情報を発信していくような冊子にしていきたいなと思ってますので、訴求力といいますか、告知力はあると思いますので、是非利用していただける機会があれば使っていただきたいなと思っております。

